



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

父、ヨハン・クリストフ・ブルームハルトは、1842年一人の女性信徒の不思議な癒しを体験をする。「朝の2時に、娘は頭と上半身を、椅子の背にのけぞらせていたが、「サタン」となった天使」と称するものが、人間の喉から出るとは思えない声で、「イエスは勝利者だ。イエスは勝利者だ」と、吠えるように叫んだ。(中略)やがて、悪霊の威力と力は、一瞬ごと奪われてゆくように見えた。悪霊は、次第に静かになり、おとなしくなり、次第にその運動が鈍くなり、ついには全く認めることができないほどに消滅してしまつた。(「神の国の証人ブルームハルト父子」より)

「戦い」の問題として捉え、たということ。そしてこのことこそが、バルトラに教えた最も重要なことであり、「今日のわれわれが自分自身の信仰問題としても最も緊急に聞かねばならぬ事柄だと、私は思う」と続けられるのだ。このブルームハルトの決定的出来

瞑想

わたしは、とこしえの愛をもって  
あなたを愛し  
変わることもなく慈しみを注ぐ。

主幹牧師 榎本 恵  
エレミヤ 31:3

「しかし、ヤコブはここから救い出される」(30:7)と力強く断言する。救いと、決して観念論ではなく、まさに現実の出来事なのである。永遠に変わることを、愛と慈しみの救いの業。「わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し変わることもなく慈しみを注ぐ。」(エレミヤ31:3)この新しい契約を、私たちは、今、私たち自身に語られる言葉として、聞いていきたい

持つて語り、厳しく弾劾するのだ。彼は、この活ける神の力を、個人の幸せに賭めるのではなく、まさに神の国の実現を見出そうとした。彼はとうとう「神の国を、宗教的・教会的なものの中に求めないで、この世に求め」(「神の国の証人」より)「牧師を辞し、当時のマルクス主義革命を目指したドイツ社会民主党に入党し、政治家になる。しかし、そこでも、彼の求める神の国は得られず、第一次世界大戦へと向かうヨーロッパの中で、政治の世界からは距離を置き、再び父の見出した神の国の待望へと駆り立てられて行く。彼の大胆な言動は常に物議を醸し、制度教会からは異端視され、妥協と打算の産物である政治の世界においても、疎んじられる。しかし、私は彼こそが、あの預言者エレミヤが見出した「とこしえの愛をもってあなたを愛し変わることもなく慈しみを注ぐ」活ける神を求め続けていたと確信する。友よ、最後に、死の直前に語ったブルームハルトの言葉を紹介する。「われわれには、しばしば、神様がわれわれを忘れてしまわれたかのように思われる。しかし、彼は、依然としてわれわれのもとにいられる。そして、御言葉は生きていて、真実であつて、われわれは、確信を持って続けるのを許される。」

# おきなわ巡礼の旅に 同行させて頂いて

稲荷 明古

まず最初に榎本先生がご案内下さった場所、南部のサトウキビ畑の合間にある、壕の跡地、ガマ（自然にできた洞穴）の入り口でした。ここにひめゆり学徒隊の方々がおられた野戦病院の第二外科壕があったというのです。見た目には小さな

入口であるけれど、およそ四百人もの方々の御遺骨を収集されたと聞き、驚きました。最終地の第三外科壕は、資料館が建てられ千羽鶴や献花があるのに、第二外科壕は石碑が二つあるのみで、道案内の看板もなく、落ち葉と雑草だらけになっていました。蟬の



よ～ら（ちゅらぢゅら）美ら海、いつまでも！と願う。伊江ビーチにて

声（こゑ）が響き、時（とき）が止まってしまうたかのような感覚を味わいました。ここで命の終わりを迎えた方たちは、どのようなことを想っておられたのでしょうか。ここを一年に一度お掃除をするのは、考えていた以上に大切だということを感じました。お掃除後、参加した方それぞれから、

沖縄のお祈り、般若心経、讚美歌と聖フランチェスコの平和の祈りがされました。信じている神様が異なっても一緒に慰霊を行う。それは、共にこの記憶を引き継ぎ、生きていく、その覚悟を示すも

阿波根昌鴻氏建立の、伊江島わびあいの里（左：反戦平和資料館、右：ぬちどう宝の家）



謝花悦子館長（中央）のお話の後で平和への決意新たに!!

中央左が筆者 右、井上姉

のなのかもしれないと思いましたが、その後、参加者の井上正子様とひめゆりの記念館をご一緒できたことも忘れられません。井上様にはたくさんの大切なお話を頂き、ほんとうに感謝しております。沖縄に住んでまだ一年に

もなりません、旅から戻ると景色も違って見えるようでした。気持ちを持ちを新たに「平和の道具」に近づけるよう歩んでいこうと思います。ほんとうにありがとうございました。（沖縄在住）

## 第43回 松山アシユラムに参加して

寺尾 雅生

今回のアシユラムの分（ぶん）がち（ち）合（あ）い（い）で、唄（うた）野（の）綯（い）子（こ）姉（あね）が「結（むす）婚（こん）した（し）時（とき）、夫（つま）（隆（たか）師（し））は（は）私（わたし）に、『夫（つま）は（は）同（どう）じ（じ）方（か）向（むく）に（に）向（む）か（か）っ（っ）て（て）歩（あ）む（む）べ（べ）き（き）で（で）あ（あ）る（る）。も（も）し（し）互（たが）い（い）に（に）向（む）き（き）合（あ）っ（っ）て（て）い（い）る（る）なら（ら）、そ（その）関（かん）係（けい）は（は）腐（くさ）っ（っ）て（て）く（く）る（る）』と（と）言（い）っ（っ）た（た）の（の）です（す）。と（と）話（わ）し（し）始（は）め（め）ま（ま）し（し）た（た）。す（す）る（る）と（と）他（た）の（の）人（ひと）が、『夫（つま）婦（め）ど（ど）の（の）人（ひと）が、協（きょう）力（りき）者（しや）で（で）あ（あ）る（る）関（かん）係（けい）の（の）方（かた）が、ど（ど）れ（れ）だ（だ）け（け）お（お）互（たが）い（い）に（に）良（よ）い（い）こ（こ）と（と）か（か）』と（と）言（い）い（い）、ま（ま）た（た）別（べつ）の（の）人（ひと）が「夫（つま）と（と）向（む）き（き）合（あ）っ（っ）て（て）話（わ）す（す）る（る）と（と）、相（あ）い（い）手（て）の（の）無（む）責（せき）任（にん）で（で）い（い）い（い）加（か）減（げん）な（な）返（へん）事（じ）に（に）腹（はら）が（が）た（た）つ（つ）だ（だ）け（け）だ（だ）」と（と）言（い）い（い）、更（さら）に（に）別（べつ）の（の）人（ひと）が「夫（つま）が（が）家（か）に（に）い（い）る（る）だ（だ）け（け）で（で）負（お）担（たん）に（に）感（かん）じ（じ）る（る）時（とき）が（が）あ（あ）る（る）」と（と）、異（い）口（くち）同（どう）音（おん）に（に）姉（あね）妹（いもうと）の（の）言（こと）葉（は）に（に）賛（さん）意（い）を（を）示（し）し（し）ま（ま）し（し）た（た）。こ（この）メ（メ）ン（メン）バ（バ）ー（ー）は（は）全（ぜん）員（いん）、夫（つま）婦（め）ど（ど）も（も）信（しん）者（しや）で（で）あ（あ）り（り）、教（きょう）会（かい）で（で）も（も）重（じゅう）責（せき）を（を）担（たん）っ（っ）て（て）い（い）る（る）人（ひと）た（た）ち（ち）で（で）し（し）た（た）。話（わ）が（が）一（いち）段（だん）落（らく）し（し）た（た）時（とき）、綯（い）子（こ）姉（あね）が「し（し）か（か）し（し）、あ（あ）の（の）時（とき）の（の）夫（つま）の（の）言（こと）葉（は）は（は）間（ま）違（ちが）い（い）だ（だ）つ（つ）た（た）と（と）、後（あと）に（に）な（な）っ（っ）て（て）わ（わ）か（か）っ（っ）

- ご献金者 敬称略 7月分
- 鹿屋 教会
- キリスト教 良雄
- 金山 新市
- 照屋 ヨシ
- 亀井 良明
- 山田 朝子
- 沖田 哲造
- 中谷 多子
- 斎藤 本るつ子
- 阪神 ミニアシラム
- 塩沢 ふさ子
- 榎戸 基人
- 榎戸 真弓
- 瀬戸 昭
- 渡辺 美寿子
- 榎本 恵
- 榎本 康子
- 榎本 光太
- 河村 剛
- 渡倉 崇宣
- 長岡 リッコ
- 正田 志美子
- 吉田 千歳
- 植松 智京子
- 上柿 京久子
- 山田 香子
- 香川 孝子
- 野波 都子
- アライアンス
- 共教
- 榎本 久美江
- 大阪 聖書教室
- 志村 澄江
- 村瀬 俊夫
- 村上 勇
- 無名 氏
- 山田 和子
- 榎本 てる子
- 榎本 てる子
- 広野 祈り
- 藤口 榮子
- 藤口 榮子
- 松山 アシユラム
- 友の会
- 米田 歌子
- 米田 悦子
- 中澤 育世
- 沢田 義明
- 山岡 義明
- 常任 運営委
- 員 修造場
- アシユラム
- 開会礼拝
- 森 まし子
- 明石 シオン
- 加藤 和子



## 2016年 天上の友を憶える日礼拝

「主なるわが神よ、新しい日の務めとわざに出てゆく前に、心をひくくし、あなたをあげてみ前にひざまずきます。(中略) きょう仕事につくわたしの行くところどころにわたしをとりまく霊的な存在を感謝いたします。天の万軍、すでに働きをやめて休んだ聖徒たち、旧約の族長、預言者、使徒、また高貴な殉教者の群れ、清くしかも心のひくい人びと、世を去った親しい友、ことに〇〇〇〇と〇〇〇〇のために、あなたの大いなるみ名をたたえます。

神よ、わたしをキリストの教会の一員として召してくださったことを喜びます。どこに行ってもこの聖なる交わりにある自覚がわたしにともない、孤独なときには慰め、人々の中にあっては守り、誘惑に対してはわたしを強くし、正しい愛の行いに向かって勇気を与えてくれますように。」(J.ペイリー「朝の祈り 夕の祈り」より)

今年も、7月24日に「天上の友を憶える日礼拝」を守ることができた。13名の方が、今年新たに墓碑銘の中に加えられた。しかし、それは決してそれで終わるものではない。私たちの毎朝の早天祈祷会では、J.ペイリーの「朝の祈り」が読みあげられる。毎月の22日、私たちは、すぐそばにおられる、私たちの主とともに、天上の友の霊的存在のあることを思い起こしている。「子羊と共に14万4千人の者たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。」(黙示録14：2) そのことをしっかりとおぼえ、これからも「天上の友を憶える日礼拝」を大切なものとしていきたい。

最近、お手紙とともに、もう高齢になり、ア

シュラム誌を読めなくなったため、中止してほしいというお便りをもらうことがある。大変残念なことであり、申し訳ないと思う。しかし、必ず主は、その刻印をその額に記される。たとえば、アシュラム誌が読めなくなっても、アシュラムに参加できなくなっても、私たちの友であることには変わらない。そしてそれは、天上においても同じことなのだ。来年は、榎本保郎牧師召天40年の年を迎える。どうか、このことも覚え、ともに祈り備えていこう。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

※新たにご連絡いただいた天上の友  
渡部綾子姉(秋田・6/16御召天)



参列下さった夕礼拝の友



アシュラムの始めから、共に歩み、  
支え続け下さっている  
渡辺美寿子姉(左)

体調不良の中、御主人博介兄の遺影を胸に  
駆けつけて下さった



のびやかな賛美を披露

←アメリカ ロサンゼルスから、  
ハンナ親子(るつ子姉の教え子)  
ロサンゼルスアシュラムの頼もしい友



“ちいろばひろばの  
おやつ屋さん”  
くるるんケーキと  
はっぱジュース!?



みどりちゃん  
光太兄

知恵姉

めぐみちゃん

夏休み、子ども達が来て、センターやWハウスは、たちまち“ちいろばひろば”に!  
アシュラムがずっとずっと継がれていきますように…

後宮俊夫師（アシュラムセンター代表、運営委員長）の記事が  
2016年8月17日（水）付けの毎日新聞に掲載されました。

# 相手の痛み分からなかった

## 71年忘れ得ぬ 戦争の現実 ⑥

軍人一家に生まれた。父は職業軍人。父のいとは陸軍大將で要職を歴任し、同期の東條英機を盟友として支えた後宮淳だ。和歌山市で幼少期を過ごし、神戸市に移って海軍兵学校に合格。1941年秋に卒業、戦艦「霧島」に配属された。

艦長付き航海士として船の位置の計測や進路の決定、情

### 「ゆるす」ことで訪れる平和

報の整理伝達を担った。着任あいさつの時、上官が「戦争が始まるかもしれない」と言った。同年12月8日、真珠湾攻撃に参加。「華々しい戦いが光栄だ」。一方、攻撃後は全速力で逃げる計画だったが、霧島は他の戦艦に比べ速力が低く、反撃で沈められる可能性を思った。「私の人生

出した瞬間、背中を丸太で殴られたような衝撃が走った。弾の破片が後ろから当たった。自分の血と仲間の血で服を真っ赤に染めながら艦内の治療所に運ばれた。間もなく「総員上へ」の号令。艦を見捨てる意味だ。甲板に上がると艦は傾きはじめた。他の乗員に続き、

は一善の終わりかと覚悟したが、無傷で帰った。ミッドウェー海戦などを経て42年11月、第3次ソロモン海戦へ。右の高角砲の指揮官になり、撃ち方始めの命令を発していた。オーストラリア北東、ガダルカナル島近くの狭い水域に数十隻がひしめく大乱戦。壮絶な撃ち合いのさなか、指揮所から身を乗り出した瞬間、背中を丸太で殴られたような衝撃が走った。弾の破片が後ろから当たった。自分の血と仲間の血で服を真っ赤に染めながら艦内の治療所に運ばれた。間もなく「総員上へ」の号令。艦を見捨てる意味だ。甲板に上がると艦は傾きはじめた。他の乗員に続き、

横に付けた駆逐艦に飛び移ろうとしたが、負傷した体でよろめき転倒。艦の側部に激突し、海面に投げ出された。意識を失ったが、近くにあった仲間が救助された。「意識があったら水を飲んで死んでいたかもしれない」。霧島は大爆発して沈み、脱出せず。運命を共にした仲間もいた。トラック島の海軍病院に入



戦艦「霧島」乗組員

後宮俊夫さん(94)＝湖南市



戦艦「霧島」＝横須賀で1930年

戦に復帰したが、今度は核感染が分り、東北で療養中に終戦を迎えた。戦後、榎本保太郎牧師と出会った。「ちいほは牧師」の愛称で知られ、三浦綾子の「ちいほ」先生物語で描かれた人物だ。感銘を受け、洗礼を受ける。自らも牧師として熱心な伝道活動をし、78、88

年、国内のプロテスタントで最大の日本基督教団のトップ、総会議長も務めた。地域に根ざした障害者・高齢者施設の運営などの福祉事業も手がけ、ランフワークとなった。老後は自ら立ち上げた湖南市内の通所施設で過ごすが、時折あの戦争を思い出す。海戦では「相手の痛みが分からなかった。かたきを取ろうとやり合うと、きりが無い。互いにゆるすこと。それがなければ平和は訪れない」

44年4月、大本営軍参謀次長になっていた淳に面会した際「この戦争をどう終わらせようかを考えている」と聞いた。初めから無謀だと分かっていたのに、どうして戦わせたのか。軍隊を持てはいずれ戦争を始め、終えることもままならなくなる。だから軍隊はいらない。政府が「積極的平和主義」や9条改憲を目指す。思いは強くなる。「戦争に行くのは若い人。勇ましく言うてる人たちは戦争には行かん。涼しい顔をしてるんだ」

【大原 城】  
二〇一六年

アシュラムセンターホームページ  
[www.ashramcenter.jp](http://www.ashramcenter.jp)



榎戸様ご夫妻と。  
（ホームページ開設、作成者。静岡岡聖書教室会場に住まれ、集会参加、手作り菓子をご用意下さる。）

8月の最後に、東京町田の黒見妙子姉が、ご自宅を開放され、み言葉に聴く集会をしていただいた。家庭を開放し、このような集会が行われるのは、猪瀬和子姉のところでも、もう10年近く続いている「広野祈りの家」に続く2つ目のものである。長年祈り続けてこられた姉妹たちの願いは、「ご自宅でアシュラムを」ということであった。誰もができることではないが、誰かがやらなければ、始まらない。どうか、祈りのうちに覚えていただけたらと思う。さて、準備してきたアシュラムセンターのホームページが完成した。ご覧いただけたら幸いです。

（恵）

あとがき

10月のアシュラムなど		
3(月) 4(火)	山陰アシュラム(シャトーおだか) 奉仕者 村瀬俊夫師	0859-45-3663 宮脇弘師
7(金) 8(土)	新潟一泊アシュラム(メイワサンピア) 奉仕者 櫻本恵師	0250-23-2697 吉澤昭男兄
10(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM 1:30) 奉仕者 櫻本恵師	092-607-8251 樋口栄子姉
10(月)	第6回 岩松アシュラム(岩松教会) 奉仕者 寺尾雅生師	0895-32-2114 新垣達也師
10(月)	福島浜通りアシュラム(原町聖書教室) 奉仕者 村瀬俊夫師	0244-23-1202 石黒寛師
13(木)	常任運営委員会(アシュラムセンター)	0748-33-4030 アシュラムセンター
14(金) 15(土)	北陸・富山アシュラム (インテック大山研修センター) 奉仕者 村瀬俊夫師	0765-54-3548 高山美津江姉
16(日)	ちいろば牧師記念チャペル礼拝・愛餐会 (PM 5:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
18(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
19(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM 1:30) 奉仕者 櫻本恵師	075-643-2476 みんなのカフェちいろば
21(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
24(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM 2:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
25(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
25(火)	桜美林聖書教室(桜美林大学 PM 2:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
28(金) 29(土)	第16回 愛知一泊アシュラム (南山学園研修センター) 奉仕者 村瀬俊夫師	0562-47-0528 溝口勝幸兄

2016年11月のアシュラム予定	
札幌アシュラム	
日時	11月1~2日(火~水)
場所	札幌サンプラザ 参加費 10,000円
奉仕	櫻本恵師
申し込み	吉田すみゑ姉 011-561-7951
お待ち しています	
第40回 阪神アシュラム	
日時	11月10~12日(木~土)
場所	母の家ホテル
奉仕	櫻本恵師
申し込み	アシュラムセンター 0748-33-4030

2016年12月以降のアシュラム予定	
2017年1月26~28日	第42回 年頭アシュラム

いのちのことば社・宮田姉(和子母右)方が、本の製作のため来訪。撮影はWハウスで。



みつけたよ  
泉谷千賀子  
(フェルト人形作家)  
プレゼントに  
ピッタリ!



## みことば

岡山聖書集会(無教会)  
香西 信

「ことばの意味を開く(7)」

悔い改めて、イエスさまの方を向いて歩むということは、決して楽な道のりではありません。それは、聖書の言う真理というものが、しばしば世の常識と反対のものだからです。

聖書は真理を逆説的に語るものです。逆説とは、「衆人(世間一般の人)の受容している通説、一般的に真理と認められるものに反する説。『貧しき者は幸いである』の類」(広辞苑)と辞書にあります。英語ではパラドックスと言います。これはもともとギリシャ語から来た言葉で、パラ(〜に反する)とドクサ(意見)、つまり意見に反するものという意味です。

この辞書の例にも挙げられている「心の貧しい人々は、幸いである」(マタイによる福音書5章3節)は有名なイエスさまの山上の説教と言われるものです。他の福音書の平行する記事においてはもっと直接的に「貧しい人々は、幸いである」(ルカによる福音書6章20節)とあります。

おそらく世間一般の価値観では、お金持ちほど幸せであるというのが常識です。お金を持っていれば生活全般にゆとりが生まれ、精神的、文化的にも豊かな生活が送れます。文化的で人間らしい生活を送ることこそ幸せであると言われます。

けれども聖書が語る真理はそれと正反対のことを語っています。「貧しい」とはまさに乞食のようなという語感を持つ言葉です。心も体も貧しいこと。これこそがまことの幸いであるとはどういうことでしょうか。「悲しむ人々は、幸いである」も同様に逆説的な真理でしょう。

このような聖書が語る真理はすぐ読んで理解出来るようなものではありません。巷に溢れているご利益宗教のようにわかりやすいものではないのです。そこでは真理は隠されています。ですから聖書の真理がわかるためには、聖霊によってその深い意味を開いていただき、啓示していただく必要があるのです。